

1 目指す教育

- 附属小学校・中等教育学校の教育理念
 - ・豊かな国際感覚の醸成
 - ・世界に貢献できる人間の育成

高い言語能力を活用して世界の人々と協働
論理的な思考により課題を解決

小学校段階・身近な事柄を英語でやり取り

- 12年間を見通した英語教育
 - ・都独自の教育要領に基づいた指導の実施

2 小学校段階の英語教育

- 低学年からの外国語科（英語）の導入、配当時数の増加
 - ・カリキュラムの工夫、教育課程特例校制度の活用（申請予定）
 - ・独自英語教材による系統的な指導
- 英語力習得に向けた指導方法等の研究開発
 - ・入学した全ての児童が到達目標を達成するための指導方法
 - ・日常的に英語に触れる教育環境（外国人ALTとのやり取り、共有スペースの設置）
 - ・デジタル教材を用いた効果的な指導方法

3 英語の授業時数、使用教材

学年（標準授業時数）		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
小学校	位置付け	—		外国語活動		外国語科（英語）		
	年間授業時数	—		35	35	70	70	
	主に活用する教材	—		Let's Try!（文科省著作）		検定済教科書 5, 6年用		
附属小学校	位置付け	外国語科（英語）						
	年間授業時数	136	140	140	140	140	140	
	主に活用する教材	Let's Try!（文科省著作）			検定済教科書 5, 6年用			
		Journey ①、②		Rainbow ①、②（仮称）		Bridge ①、②（仮称）		
	併用する教材	Welcome to Tokyo（都教委）・TokyoGlobalStudio（都教委）						
到達目標（目標レベル）	自分に関するごく簡単な質問に答えられる （CEFR Pre-A1）			日常生活での基本情報について英語で理解、説明できる （CEFR A1、英検3級）				

CEFR：外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠

4 独自教材の特色・活用

- ① 他教科で学んだ内容を英語で理解し発信する素材を選定
- ② 言語への興味・関心を喚起するための身近な事象を素材化
- ③ 教材のデジタル化による活用（GIGAスクール端末で使用、自宅での学習可）
- ④ 英語によるやり取りを充実するための外国人ALTの積極的な活用
- ⑤ 既存の英語教材との関連性を重視した構成
（Let's Try!やWelcome to Tokyo）

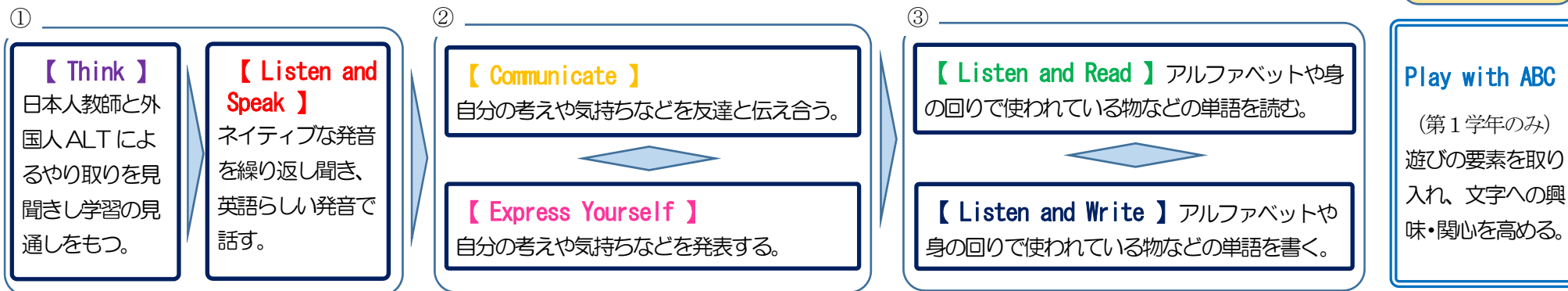
5 これまでの経緯と今後の取組

平成31年度 令和2年度	外部有識者、都内小・中学校の教員からなる委員会を設置し、指導案と紙面イメージ、単元指導計画、評価規準、評価シート、振り返りシートを作成 低学年用「Journey」完成 （検討・編集）松本 茂 氏（立教大学経営学部国際経営学科教授） // 金森 強 氏（文教大学教育学部学校教育課程英語専修教授）	令和3年3月現在所属
令和3年度 令和4年度	小学校開設準備室によるJourney 教授法研究、教材作成 開校 英語教材使用開始、研究授業（公開）	中学年用「Rainbow（仮称）」の作成
令和5・6年度	高学年用「Bridge（仮称）」の作成	

1 授業の基本的な流れ（低学年）

- ① 【 Think 】 で、英語でのやり取りを聞き十分に音声に慣れ親しむ。【 Listen and Speak 】 では話すことに取り組む。
- ② 【 Communicate 】 【 Express Yourself 】 で友達の考えを聞いたり、自分の考えを話したりすることに取り組む。
- ③ 聞くことや話すことを通じて文字に慣れた後に 【 Listen and Read 】 で読むことに取り組む。【 Listen and Write 】 で書くことを徐々に学ぶ。

新出単語
300語/学年



2 独自教材の内容（特色の反映）

【 Think 】 のページ（1学年）



（CLIL的な学習）

生活科で身近な自然を観察した後に、関連した内容を英語で学ぶ。

【 Listen and Speak 】 のページ（1学年）



（身近な事象を素材化）

生活や学校に関連する身近な事象や物の名前を英語で学ぶ。

【 Communicate 】 のページ（1学年）



（やり取りが中心）

友達の考えを聞いたり、自分の考えを話したりしながら英語を学ぶ。